

# 株式会社PAY ROUTEインターナショナル

外部人材となるエンジニアと革命的な認証システムの開発に成功  
最新セキュリティシステムを採用したID・PASS不要ログインシステムを展開

## 事業内容

### 最新セキュリティシステムを採用した新決済サービスを展開 VISAとの直接契約による手数料の低コストが強み

クレジットカード事業、オンライン決済事業、コンサルティング事業、オンライン決済システム開発業を主業としており、『Visaインターナショナル×国内クレジットカード会社』より正式に認可されたアクワイアリング・エージェント(通称:AA)として、クレジットカード加盟店業務を行うVisaの加盟店総合窓口の会社である。当社の特徴の一つとして、VISAの国内決済会社と直接契約することで、加盟店は決済代行業者を通さずに直接カード売上が入金される仕組みを取っているため、加盟店にとって決済手数料等をおさえることができる。また、WEB上でのオンライン決済と実店舗での端末機決済の両方を一括導入すること

ができ、最新セキュリティシステム採用したID・PASS不要ログインシステムの開発により、加速的に新サービスを展開している。



## 外部人材活用・人材投資に注力した背景

### 外部人材開発者との出会いが新認証システム開発のきっかけに 社外取締役に迎えて開発が加速

現在、クレジットカードの普及率が16%前後で、国も50%まで上げていきたいという背景もあり、当社もこのような経営環境において、安心・安全かつ利用者の利便性を兼ね揃えたクレジットカード決済システムを展開している。クレジットカードを持たない人は、使い過ぎとセキュリティの面でのリスク要因が大きい。フィンテック含めたインターネット上でクレジットカードを使うシーンが増えてきており、ハッキングやなりすましの不正決済を防止するニーズがあり、このような課題解決のためにサービスを開発した。

そんな中に出会ったのが、のちに共同で新認証システムを開発した外部エンジニアであった。M氏は自らシステム会社を経営しながら物理の塾講師をしていた関係で知り合ったのがきっかけであった。独自で研究した認証技術が話題になった際にクレジット決済の技術に活かせるかもしれないと感じたのが始まりだったという。

その後、M氏がPAY ROUTEインターナショナルの社外取締役に就任する。同社の持つインターネットの決済技術とM氏が保有する認証技術を持ち寄り、金融に特化した個人認証システム「ROUTE CODE(ルートコード/決済アプリ)」を約1年6カ月で開発することが出来た。「シンプルに拘り、誰にでも分かりやすい、簡単に使えるものをどんどん新しく作っていく」という当社の理念と基本コンセプトを基にROUTE CODEを展開、進化させていった。



代表取締役社長 清水 友大 氏

## 株式会社PAY ROUTEインターナショナル

〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島1丁目1-25 新山本ビル6F  
TEL: 06-6131-7455 FAX: 06-6131-7655  
<https://www.pay-route.co.jp>

〈代表者名〉 清水 友大  
〈創業年月〉 平成23年4月  
〈資本金〉 9,917万円  
〈従業員〉 12人  
〈業種〉 クレジットサービス事業  
WEB決済事業  
コンサルティング事業  
セキュリティ関連事業

## 外部人材活用の成果と今後の展開

### 最新セキュリティ機能を採用したID・PASS不要ログインシステムを展開 業容拡大に備えて、採用強化と社内のフローの再構築に注力

PAY ROUTEインターナショナルが開発したROUTE CODEは、「ID・パスワード不要」「ハッキングを事前防止」「なりすまし防止」「離脱率の抑制」などの機能をもつサービスである。

WEB上でクレジットカードを使う場合、会員登録(ID・パスワード)は現状必須な手続きとなっている。当社のROUTE CODEは、このID・パスワードを無くしてログインすることができ、且つ最新セキュリティ機能を搭載した認証システムである。現在のID・パスワード認証方法には課題が多く、日本の成人は1人当たりID・パスワード平均14以上を保有している。ほとんどの人がスマホや手帳にメモとして残していることが多く、パスワードは誕生日、携帯番号など自分に関連するものから作られるケースが多い。また、パスワードには共通した番号を使用する割合もまだまだ高いようだ。一説によるとハッカー等に「SNSから誕生日や携帯番号などを入手すると暗証番号のハッキングには、1秒掛からない」といわれている。

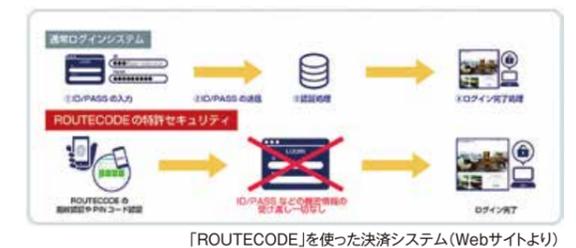
また、最近ではセキュリティ面から複雑なパスワードを入れないとログイン出来ないのでは、離脱率も非常に高くなってきている。検索サイト大手では、1日あたり1万5千件のパスワードの再発行の手続きがあるという。

セキュリティ面では、個人認証の方法が沢山あるがそれぞれ、メリット、デメリットがある。例えば、大手カード会社が開発したインターネット上の本人認証は、世界標準の本人認証方法になりつつあるが、クレジットカードを使う毎にカード会社にパスワードを申請する必要がある。そのため、ユーザーが面倒だと思いついて購入機会を失うことも増えているという実態がある。ROUTE CODEは、これら不便性による加盟店側の機会ロスなどの経営課題を克服し、且つセキュリティレベルの高度化を両立させた認証システムとして開発された。

現在、ROUTE CODEを業種の違う企業に導入してもらい実証しながら、今後の本格的展開をすすめている。

それに伴い現在13名在籍している従業員を新たに50名採用し、社内の体制を一気に強化する予定だ。採用する職種も多彩で、マネジメント力を整えることが課題と考え、現在、社内マニュアル等のスキームを再構築している。また既存の生体認証などの技術も取り込み、セキュリティをさらに高めていくことも検討している。別途研究開発組織を立ち上げ、研究機能を内製化することで事業展開のスピードを高めている。

PAY ROUTEインターナショナルではROUTE CODEの技術を金融業界のみならず、運輸、行政など、新しい可能性を模索中である。清水社長は、「最新セキュリティ機能を採用したID・PASS不要ログインシステムを周知、展開させていき、お客様と導入店舗の双方のニーズに対応できる決済手段を広めて、世の中の合理性を高めていきたい。」と今後の展望を語る。



PAY ROUTEインターナショナル オフィス内(大阪市北区)